

研究報告『「英語の学び方」をどう学ばせるのか?』

—2010 年度必修英語 TOEIC English I 授業再考—

In Search of a Way of Teaching “How to Be a Good Language Learner”

—The 2010 Required TOEIC English I Class Reconsidered—

後藤 玲子*

GOTO, Reiko

概要

加速していく国際化・高度情報化・少子高齢化社会の激流の中で、大学はついに「全入時代」に突入した。学生の多様化と歯止めのかからない低学力化という困難に対する有効な対策が模索されている今、城西大学の1年生にとって大学入学初年度にして、かつ、学校英語最後の必修科目になる可能性の高い授業の中で、英語の基礎・基本の復習と、時代と社会の要請でもある TOEIC イングリッシュというコミュニケーションのための英語力の育成の二つをどうすれば達成しうなのか。拙論では、城西大学における 2010 年度の TOEIC English I の授業を、目的・方針・到達目標・授業内容・方法・テスト結果・学生による目標到達度評価などから省察的に振り返り、彼らは英語の学び方を学んだのかという視点からその現状と課題を明らかにし今後の授業改善に向けての糸口を探る。

研究の結果わかったことは、教師による成績評価は単位認定上当然重要であるが、より本質的なことは、学生が英語学習における自分の目標を自覚し主体的に取り組むことであり、その結果としての目標到達度を「学び方」もふくめて自己評価することで、自分の到達度、何らかの進歩・向上を実感し、それを肯定的・積極的に評価できるようになると同時に、その後の目標も自分で設定することが可能になるということである。学生たちに「英語の学び方」をどう学ばせるか・その評価方法・習得途上にある英語学習をどう継続させていくのか、より高度な英語力を身につけたいという意欲のある学生にどう指導し将来の目標に近づけていくのか、また、目標を持たず意欲もわからない学生に対して何ができるのかについて今後さらなる研究が必要である。

* 城西大学語学教育センター

1 はじめに

——国際化・高度情報化・少子高齢化社会と「大学全入時代」の大学英語教育

文部科学省の中央教育審議会が2004年12月20日に出した「我が国の高等教育の将来像（中間報告）」のなかで「18歳人口が減少を続ける中、大学・短期大学の収容力（入学者数/入学志願者数）は平成19（2007）年には100%に達するものと予測される」と報告し、いわゆる「2007年問題」として議論されてきたが、大学は今その「大学全入時代」の真っ只中にある。^{注1）}「知識基盤社会」（knowledge-based society）といわれる21世紀において国際化・高度情報化がさらに加速していく一方、大学の授業現場では「学生の質に関する選抜機能を十分に果たしえなくなっている」^{注2）} 状況下、学生の多様化と歯止めのかからない低学力化という困難に直面している。

英語はますますその重要性を増している中、大学英語の授業のあり方について模索は続いている。特に、リメディアル教育、つまり、大学で授業を受ける前提となる中学・高校レベル英語の基礎・基本の復習・補習的授業と、国際社会や一般企業からの、いわば時代の要請でもあるTOEIC^{注3）}イングリッシュというコミュニケーションをめざす英語力の育成というかなりかけ離れた二つの現実を、実質1回80分、年間最大で30回の授業の中でどう繋ぐのか。その第一歩をどう始めるのか。

拙論では、つい先日成績報告を終えたばかりの2010年度城西大学の1年生の必修英語 TOEIC English I の授業を取り上げ、その目的・到達目標・方針・授業内容・方法・テスト結果（入学時&授業終了時の同一問題 Placement Test・小テスト・中間&期末テスト）・学生による目標到達度評価などを省察的に振り返り、彼らは英語の「学び方を学んだのか」という視点からその現状と課題を明らかにし、今後の授業改善の糸口としたい。

2 2010年度 TOEIC English IC/ID の授業の概要

2.1 担当クラスと使用テキスト

表 1

2010年度 TOEIC English I 担当クラス				
クラス		科目	レベル	Placement Test 平均点(/100)
薬学部 1年	YK	IB/ID	下	27.1(薬学部は別問題)
経済学部 1年	EE-1	IB/ID	下(-下)	18
経済学部 1年	EE-2	IB/ID	下	29.4
短大ビジネス総合学科 1年	TB-1	IC/ID	下(-下)	25.4
短大ビジネス総合学科 1年	TB-2	IC/ID	下(-上)	47.6

今年度の TOEIC English I (I=1年) の私の担当クラスは、年度当初の語学教育センターの全体打ち合わせ会で確認されたクラス・レベルは全て「下」、さらに科目も全て B/D (=文法・作文)、

短大の C/D (=文法・リーディング) クラスであった。学部別、大学／短大別の学生たちの取り組みを比較しようと考え、可能なかぎり共通教科書とした。基礎練習用の教科書として、経済学部レベル別指定教科書の中から選んだ **Communication in Simple English** (三修社, 2007 年) を薬学部と短大でも使用し、計 5 クラス共通の教科書にした。TOEIC 練習用の教科書は、やはり経済学部指定教科書の中から **My First TOEIC Test** (自習 CD 付) (朝日出版社, 2009 年) を選び、短大でも使用し 4 クラス共通とした。薬学部は薬学部指定教科書のなかから **Step-up Skills for the TOEIC Test** (自習 CD 付) (朝日出版社, 2010 年) を選び、それを TOEIC English II (=2 年, 経営学部のみ 2 年次も必修) のクラスでも使用し比較することにした。

2.2 基本方針

- ① 学生自身にそれぞれの出発点を自覚させ、将来の目標に向かう第一歩として自分なりの「英語の学び方」を学ばせることを教師の目標とする。
- ② 授業の目的、到達目標、内容、進め方、成績評価方法を学生にしっかり説明する。
- ③ 「予習―授業―復習」を習慣づける。特に、復習に音読とノート活用を奨励し、有効なノート作成・活用方法を考えるように指導する。
- ④ (授業冒頭の) 5 分間復習テスト、中間試験、期末試験を実施し、その都度到達度を学生自身・教師ともに確認し、90%を **Excellent!**、70%以上を **Good!** (合格)、70%未満を **Wow!** (不合格＝復習不足) としてフィードバック (提出したものにはこのハンコを押す) し、分からなかったところとまちがったところの復習を継続させる。
- ⑤ 最後に目標到達度と授業への取り組みを自己評価させる。
- ⑥ (可能なかぎり) 教師の最終評価と助言を学生に伝える。

全ての学生が共通の関門をくぐるのは大学入試までである。その後はそれぞれが自分の人生の目標に向かって進んでいく。彼らの将来の目標や夢について、授業初日、授業紹介後 5 分間、B 6 用紙に書かせてみた。たとえば、薬学部の学生は「薬剤師。大学院へ行って病院で働く」、「製薬会社で働きたい」、「安全で害のない薬の研究・開発」、「化粧品関係の技術者か、販売者」、「科学的な人で、何か研究職につきたい、英語圏で生活していける程度になれば最高です」、経済学部の学生は「公務員、もしくは銀行員」、「金融会社」、「報道関係の仕事」、「旅行会社」、「教員」、「一般企業、できれば鉄道」、「社会に通用する人間になりたい」、短大の学生は「パソコンを扱うような事務関係の仕事」、「いろいろな資格を取りたい」、「医療事務」、「図書館」、「販売関係」、「(アーティスト・コンサート・イベント) マネージャーになりたい」、「外国に行きたい」、「学校の先生になって生徒と遊ぶ (そのため 4 年生に編入します)」、「市役所の職員、ある程度、読み・書きにしても英語を使いこなして、日本語が話せない外国の方にも対応できるようになりたい」、「教

育に恵まれない国の子ども達に勉強の大切さを教えられるような国際公務員になりたい、本当は違う大学に入りたかったので、・・・英語で仕事ができるくらい（にになりたい）」など多くの学生は具体的な目標をしっかりと語る。反面、「先生が決めたのでこの大学に入った」、「夢はあまりありません、目標も決まっていない」、「卒業したい」、「不安定じゃない生活」、「家庭的ないいお嫁さんになる」と書いた学生たちもいる。目標をはっきりと持った学生たちは、英語は将来当然必要だと認識している場合が多く、さらに具体的に「TOEIC700点オーバー」、「東京外大の英語力に負けたくない」と書いた学生もいる。第2言語習得における個人差を考える時最も重要な2つの要因「言語適正」と「動機付け」（ロッド⁽⁶⁾, 134）のうちの後者においてここまで多様な、あるいは「落差」のある状態で彼らは大学の英語学習を始める。

そのような多様な学生たちにどう英語の授業を始めるのか、彼らの英語学習としての「最大公約数」とは何だろうと考えた時、「英語の学び方」を学ばせることだと私は考える。目標を持った学生はそれぞれの目標に向かって、将来要求されるであろう英語力、その時自分がつけておきたいレベルの英語力に達するための準備をこの授業を最大限活用しながら始める。目標をまだ持たない、英語に興味・関心を持たずこれまでずっと苦手意識しか持てなかった学生も、全く新しい出発として、新しい教材にまずは教師が提案するやり方を参考にしながら「英語の学び方」を学ばせる。到達可能な目標を明確に示すことで学生自身がその到達度を評価でき、その「学び方」が有効なのかどうかを自分で判断させる授業を試みた。

斎藤兆史（「学校で「使える英語」なんて幻想だ」朝日新聞 2009年8月1日朝刊⁽¹⁾）、山田雄一郎・大津由紀雄（『「英語が使える日本人」は育つのか？』岩波書店 2009年⁽¹⁷⁾）、寺島隆吉（『英語教育が亡びるとき』明石書店 2009年⁽¹⁴⁾）らが語っているように、「公教育だけで高度な英語力を身につけた人はほとんどいない」ということは周知の事実である。第二言語習得に要する数々のデータからみてもそれは明らかである。

中学・高校はもちろん、今や大学においてさえ、先ず教えるべきは「基本」であり彼らが「将来自分の目的や動機に応じて学習を積み上げていくための、土台を作ること」（朝日新聞 2009年8月1日朝刊⁽¹⁾）である。斎藤兆史と大津由紀雄との対談の中で、山田雄一郎は「英語に限らず、ことばというのは最終的には自分で学ぶものだと思いますが、いまは学校教育が最終的なところまで責任をもってやろうとしているから、これが根本的に問題を難しくしている。その幻想が、最終的な失敗につながると思う・・・」（山田・他⁽¹⁷⁾, 63）とあるように、また「学校教育で与えるべきは、そのまま実用に供する低級な会話能力ではなく、学習者個々人がそれぞれの動機に基づいてのちのち必要な英語力を積み上げることができる堅固な基礎力である」（寺島⁽¹⁴⁾, 285）という意見に私も賛成である。その最終的な目的・目標は学生が自分で見つけていく以外にはない。それは彼ら自身の人生なのだから。

生活言語は日本語ですべて事足りるわれわれ日本人にとって、「外国としての英語」（English as

a Foreign Language=EFL) を学び、目標によっては高度な運用力までを目指していくとき、最も重要になっているのは言語習得までの学習時間の総量(ロッド⁽⁶⁾, 38)である。その総量は「対象言語についての基本的な知識を持ち、簡単な会話ができ、簡単な文章が読める初級レベルに達するまでに 1200 時間の授業」、「ときおり辞書の助けを借りる程度で、新聞や興味のある本が読め、テレビやラジオを理解し、会話の中でまずまずの対応ができる中級レベルに達するには最低 2100 時間の授業が必要」(寺島⁽¹⁴⁾, 130) という資料もある。授業に毎回出席していても、じっと座っているだけでは英語を習得することはできないことは言うまでもない。

授業を最大限に活用し、その中で英語を最大限「聞き」・「読み」・「話し」・「書き」、授業が終わったら、それを忘れないように繰り返し復習し、定着させ、それをまた活用すると言う積み重ねが当然必要である。授業紹介では「復習すること」、特に「音読」と「ノート活用」を強調した。ベストセラーにもなった『東大合格生のノートはかならず美しい』(大田あや, 文芸春秋, 2008 年⁽¹⁰⁾) は最も古典的で基本的な学習道具としてのノートのさまざまな使い方を 200 冊の実物で示していて参考になるので紹介した。^{注 4)} 授業中もできるだけノートを活用させ、学生たちに自分の学習のデータベースとしてのノート術を考えさせた。丁寧に、大胆に余白をとらせながら書かせてみる。そもそも英語の授業用のノート(あるいはルーズリーフ)を持たない学生もいる。ノートの準備から始まり、毎回の授業最初の復習テストもそのノートに書かせる。「いつ」、「何を」学んだのか、「どこ」が分からなかったのか、あるいは間違えたのか。ノート活用は学習内容を定着・蓄積していくために必要なことであった。

2.3 シラバス (TOEIC English の共通シラバスはあるが、このクラス用のシラバスを作成)

授業の概要

この授業では 2 冊の教科書を使います。**Communication in Simple English** (三修社, 2007 年) で英語の基礎文法の復習と語彙を増やしコミュニケーションの場で活用する表現の仕方の勉強をします。もう 1 冊 **My First TOEIC Test** (朝日出版社, 2009 年) / (薬学部は) **Step-up Skills for the TOEIC Test** (朝日出版社, 2010 年) を使い、TOEIC Test のリスニングとリーディングの練習を毎週続けていきます。CD を活用し、英語のおおまかな内容を聞き取る、内容について正しい応答をする、空欄を埋める、文全体を書き取るなどの練習を通して聴解力の向上を図ります。また、学んだ文法の知識を活用して英文の概要を読み取る多読・速読の練習も行い、読解力もつけていきます。

予習をして授業に参加し、授業の後、教科書の音読とノートを活用した復習をしてください。毎回授業の初めに 5 分間の単語と文のディクテーション (1×10 問=10 点) の復習テストと前・後期それぞれ中間・期末テストを行い目標到達度を評価します。

到達目標

- ① 日常の様々な話題に関する語彙をふやす。
- ② 英語の CD を聞いておおまかな内容を理解することができる。
- ③ 英語の基本文法を理解し、英文を読んでその内容を理解することができる。
- ④ 映画鑑賞に関するテーマについて、インターネットで調べ、考察し、A4 用紙 1 枚のレポートにまとめることができる。

授業計画

通常の時間配分は、復習テスト（解答時間も含めて）10 分、文法の教科書 35 分、TOEIC の“教科書 35 分（Vocabulary 5 分、Listening & Reading を 20 分で挑戦、残りの時間で解説）。これはあくまで目安で、進度はクラスにより差があるので柔軟に対応する。（この授業計画は 2010 年度時間割の月曜日と火曜日の日数で組んである。また、前・後期それぞれ一本ずつ図書館での映画鑑賞が含まれている。）

表 2

資料1 2010年度シラバス

2010年度前期 授業計画		
	C.S.E	TOEIC
1	Introduction	
2	Lseeon 1 一般動詞 1	Unit 1 Eating Out
3	"	
4	Lesson 2 一般動詞 2	Unit 2 Travel
5	"	
6	Lesson 3 be 動詞 1	Unit 3 Amusement
7	Mid-term Test	
8	Lesson 4 be 動詞 2	Unit 4 Meeting
9	"	
10	Lseeon 5 場所の表現	Unit 6 Shopping
11	映画 <i>Remember the Titans</i> (2000)	
12	"	
13	Final Test	

2010年度後期 授業計画		
	C.S.E	TOEIC
1	前期末試験返却、Introduction	
2	Lseeon 5 場所の表現	Unit 7 Advertisement
3	Lesson 6 時の表現	Unit 8 Daily Life
4	"	
5	Lesson 7 進行形	Unit 10 Business
6	"	
7	Mid-term Test	
8	Lesson 8 助動詞	Unit 11 Traffic
9	Lesson 9 Wh 疑問文	Unit 12 Finance and Banking
10	Lseeon 10 基本動詞	Unit 13 Media
11	Unit 14 Health and Welfare	
12	映画 <i>Forrest Gump</i> (1994)	
13	"	
14	Final Test	

成績評価（TOEIC English I 共通）

試験 70% 授業参加 30%（出席 20% + 授業態度 10%）= 100%

2.4 「学び方」を学ぶ—— “Being a Good Language Learner”

(付録 資料1 Being a Good Language Learner 参照)

毎年、特に年度当初は「どう勉強すればいいのでしょうか」と質問されることが多い。そこで今年度は年度初めに勉強の仕方に関するプリント “Being a Good Language Learner”^{注5)} を印刷し配布した。“How can I learn a foreign language?”, “What is the best way to learn English?” という質問に答える形で分かりやすく書かれてある。要約すると以下ようになる。

全体的な助言 (General) —— 外国語は難しくはないけれど時間がかかる。必要なことは、動機付けとたくさん英語を聞く・読むこと、英語を使う練習をすること、文法上のまちがいを適時訂正すること、がんばりすぎないこと。

授業中 (In Class) —— なるべく英語を話す、まちがいを気にしない、リラックスして勉強する、英語やその新しい世界について学ぶことを楽しむ、新しい言語を実験する。

授業外 (Out of Class) —— 余暇に簡単な英語を読んでみる、映画で英語を楽しむ、英語の音楽を楽しむ、英会話を楽しむ、新しい単語や表現を復習し、それを継続していく。

どれも特に目新しいものはないが、「どこからでもいい、先ずやってみる、良さそうならそれを継続してみる」ことを薦めた。

3 試験結果と考察

表 3

資料2-1 2010年度城西大学成績資料

	YK	EE-1	EE-2	TB-1	TB-2	
P.T.前期	27.1	18	29.4	25.4	47.6	29.5
P.T.後期	33.1	30.5	34.6	30.9	47.9	35.4
増減	5.95	12.58	5.17	5.51	0.35	5.912
前期中間	77.1	51.1	65.1	48.6	75.1	63.4
前期末	82.8	62.6	68.7	54.9	85.6	70.92
後期中間	68.9	46.5	59.3	43.7	66.7	57.02
後期末	78.8	68.9	73.8	54.9	73.1	69.9
平均	76.9	57.275	66.725	50.525	75.125	65.31
TOEIC 前	7.7	6.7	6.5	6.4	8.1	7.08
TOEIC 後	6.8	6	6.3	5.7	6.7	6.3
平均	7.25	6.35	6.4	6.05	7.4	6.69
wpm/R前	133.7		142.9	104.9	161.2	135.675
後	99.2	83.4	88.7			90.43333
wpm/W前	26.8		26.7	20.6	26.4	25.125
後	25.5	21.2	22.7			23.13333

3.1 Placement Test

入学時学力測定の為のプレイスメント・テストを、別問題使用の薬学部以外の4クラスと比較してみると順位は、高いほうから短大TB-2 (47.6点)、経済EE-2 (29.6点)、短大TB-1 (25.4点)、経済EE-1 (18点) で全体的に低い。とりわけEE-1のクラスは学部で「下」のレベルでも最下位のクラスであった。しかし学期末試験において30.5点となり、薬学部も含めた5クラスと比較するとその伸び率は12.58点増となり、5クラス平均の5.9点増を大きく上回った。TB-2の学期末の点数は47.9点で、前期と変わらず5クラス比較で1位であるが、その伸び率は0.35点にとどまった。

3.2 中間・期末テスト

前期の中間・期末試験は、既習事項の定着を確認するために教科書の問題をそのまま出題した。(文法内容60点) + (TOEIC Listening & Reading 40点) = 100点。全クラス平均で63.4点と期待値であった合格の70点には届かなかった。特にEE-1とTB-1のクラスは、平均点が51.1点、48.6点と低く、70点の合格点を取った学生はそれぞれ2名ずつしかいなかった。たとえ授業中理解したとしても、復習をしなければ忘れてしまう。これらのクラスの学生たちはノート提出も少なく、ノートを活用した復習をしていないか、復習が足りなかった。答案を返却し解説した後、間違えたところを復習する時間を確保し、どのくらい学習が必要かを確認させた。期末試験は平均70.92点ということで、中間試験時よりも復習をして試験に臨んだようだ。

表 4

資料 2-2 2010年度後期末試験度数分布

	YK	EE-1	EE-2	TB-1	TB-2	計(名)
100						
90	5	1	5		2	13
80	9	5	10		9	33
70	13	6	3	2	10	34
60	2	6	7	7	11	33
50	2	3	3	9	1	18
40		3	3	5		11
30				3		3
20				1	1	2
10						
受験者数	31	24	31	27	34	147

後期試験は(文法60点) + (TOEIC 40点) = 100点は同じだが、教科書での既習事項に実力テストを加えた。まとまった量の英文を聞かせての5W1Hの英問英答(2点×5問=10点)^{注6)}とTOEIC Listening Testの15問(1点×15問=15点)である。実力テスト25点分を含む試験で、中間試

験平均 57.2 点，期末試験平均 69.9 点であった。TB -2 のクラスの点数が期待値より低い，これには理由があるが^{注 7)}，不利な条件下で 73.1 点取れたことを評価したい。

度数分布表を見てみると，テストにおいて 54.4%の学生が 70 点以上の合格点に達し（60 点以上を見ると 76.8%になる）。それに平常点・レポートへの取り組みを加算すると 147 名中ほとんどの学生が採点簿上の成績評価は A，B，C の合格点に達し，この授業の到達目標に到達したことが分かる。

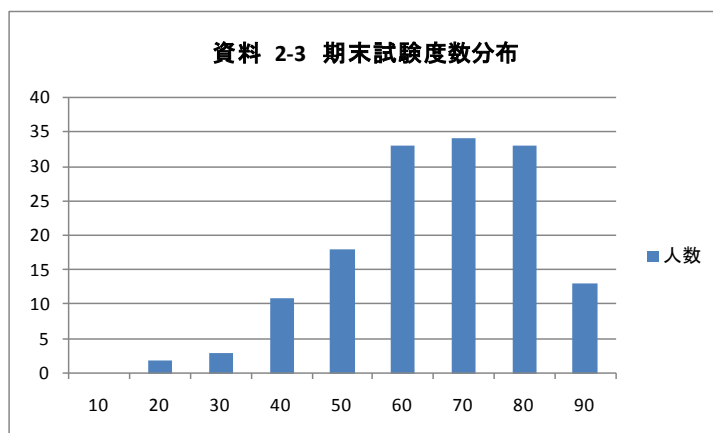


図 1

3.3 TOEIC Listening Test

実力テストとしての TOEIC Listening Test（/15 点）の結果は点数配分が低いこともありクラス差がそれほど大きく出てはいないが，中間・期末試験のクラス成績順位と平行しており，その学力差がここにも見える。まず，得点率 50%を目指しているが，75%を取ったのは TB-2 のクラスで 1 名（12 点），TB- 2 と TOEIC English II, BM のクラスで各 1 名ずつ（11 点）であった。彼らにはもっとまとまった量の TOEIC 練習問題を集中して練習させれば，更なる高得点が期待できる。なかなか得点に結びつかない学生には，CD を活用させ，音読と単語や文章を書かせながら既習問題の復習を継続させていく必要がある。

3.4 音読と書写のスピード

授業中と復習において音読と書写を奨励してきたが，ここで問題にしたいのはその「速さ」である。聴解力と読解力のレベルはその速度とかなり高い相関関係がある。つまり，聴解力・読解力の高い学生はその速度を量てみると，ほぼ確実に速度も速い。逆に言えば，「速く読む」・「速く書く」訓練をしていけば読解力と聴解力の速さとして正確さも増すと言える。しかも，速度は普段意識していない分，意識して集中的・継続的に練習させていくと「確実に」速くなる。これは「高速教習です，真剣にやってみてください」と言って，目標値を板書して学生たちに示す。

Reading Speed 100 w.p.m. (words per minute) ~
 125 w.p.m. ~ Good!
 150 w.p.m. ~ Excellent (191 w.p.m. is possible, if you try!)

Writing Speed 20 w.p.m.~

25 w.p.m. ~ Good!

30 w.p.m. ~ Excellent!

読む速度の 125w.p.m. という数字は、アメリカから発信される外国向け英語放送で発話速度が最も遅い VOA (Voice of America) の速度であり、191w.p.m. という数字はアメリカの 3 大ネットワーク (ABC/NBC/CBS) の TV ニュース英語放送の平均発話速度である。授業では、教科書で学習し終えた短い簡単な英文で音読練習を始め、TOEIC の教科書の場合も学習し終えた Reading の Part 6 を使う。座席が隣同士で二人一組になり、それぞれパートナーがどこまで読んだか／書いたかを数えさせる。読む速度を測る場合は 1 分間、書く速度を測る場合は 3 分間書かせてそれを 3 で割るというふうにして Words per minute を測る。

これを何回か続けていくと、その速度の向上を学生自身も実感できる。前期の既習 TOEIC Reading Part 6 を使った場合、(時間が取れなかった EE-1 クラス以外の) 4 クラスの全体平均で見ても、135 w.p.m./ Reading, 25.1w.p.m./ Writing という結果が出てくる。TB-2 のクラスの個人を見てみる。

I 君 216 w.p.m./R, 31 w.p.m./W, 後期末試験 82 点

K 君 203 w.p.m./R, 28 w.p.m./W, 後期末試験 88 点

T さん 207 w.p.m./ R, 29 w.p.m./W, 後期末試験 94 点

ここで明らかなのは、「読む」・「書く」速度の速い学生は、試験においてもかなり高い点数を獲得しているのである。中には、試験で高得点を取っていても内気な性格のため、特に音読のとき自分のパートナーに向かって大きな声で音読できず、w.p.m./R が低い学生もいるが、全員一斉に音読させると予想以上に盛り上がりかなりにぎやかになる。速く音読できるようになると「音読もなかなか楽しいです」とか、「けっこう速く書けるなあ」と満足げに話す学生も出てきて、それが引き金になり復習にも力が入ってくる。音読と書写の速度の向上は相乗効果をもたらす。薬学部 YK と短大 TB-2 の学生たちのノートは提出も多い (ノートを活用している学生しか提出しない)。文字も丁寧に色鮮やかなマーカーなども使われているし、整然と書かれていて、ページ数も多い傾向があった。到達可能な目標を設定し、そこに到達させると学生たちの意欲を更に刺激する。

4 学生による目標到達度自己評価の結果と考察

(付録 資料 2 「2010 TOEIC English I—目標到達度評価」参照)

シラバスに挙げた 4 つの到達目標を学生たちに 1 Very good, 2 Good, 3 Not so good, 4 Not good の 4 段階で自己評価させてみた。

(以下の資料で薬学部のクラスのデータはない。質問用紙とマークシート解答用紙を教室に持っていったに

もかわらず，時間配分の曖昧さと手際の悪さから最終日は時間切れになってしまい，目標到達度評価をさせることができなかった。記入に要するその「5 分間」を確保できなかったことは非常に残念で反省している。）

4 つの目標の到達度を 4 クラス合計値で見ると，1 Very Good と 2 Good の合計が最も多かったのが，4 のレポート課題への取り組みで 64%，2 番目に 1 語彙力 63%，3 番目に読解力の向上 58%，4 番目で一番低いのが聴解力の向上であった。

表 5

資料 3 学生の目標到達度自己評価

		人数	1Very good	2 Good	3 Not so good	4 Not Good	無回答
1Vocabulary	EE-1	22	4.55	77.27	18.18	0	
	EE-2	30	6.67	60	26.67	6.67	
	TB-1	28	3.57	39.29	42.86	10.71	3.57
	TB-2	26	3.85	53.85	34.62	7.69	
	計	106	18.64	230.41	122.33	25.07	3.57
2 Listening Skill	EE-1		0	59.09	36.36	4.55	
	EE-2		3.33	50	36.67	6.67	3.33
	TB-1		0	32.14	60.71	3.57	3.57
	TB-2		0	57.69	38.46	3.85	
	計		3.33	198.92	172.2	18.64	6.9
3 Reading Skill	EE-1		0	72.73	18.18	9.09	
	EE-2		10	63.33	23.33	3.33	
	TB-1		0	32.14	60.71	3.57	3.57
	TB-2		0	53.85	42.31	3.85	
	計		10	222.05	144.53	19.84	3.57
2 Report	EE-1		18.18	59.09	13.64	9.09	
	EE-2		30	46.67	20	3.33	
	TB-1		14.29	32.14	25	25	3.57
	TB-2		15.38	38.46	34.62	11.54	
	計		77.85	176.36	93.26	48.96	3.57

4.1 語彙は増えたのか？

「語彙が増えたのか」という問いに対し，学生たちは 1 Very Good 5%，2 Good 58% と回答し 63% の学生がたちが語彙が増えたと自己評価している。興味深いのは，前・後期，中間期末試験の平均点の成績が一番低い EE-1 クラスでは（1-4.55%，2-77.27%）評価が高いのに対して，成績が一番高い TB-2 クラスでは（1-3.85%，2-53.85%）それほど高くない。なぜ前者の評価は高く，後者は低いのか。そもそも「語彙が増えた」というのはど

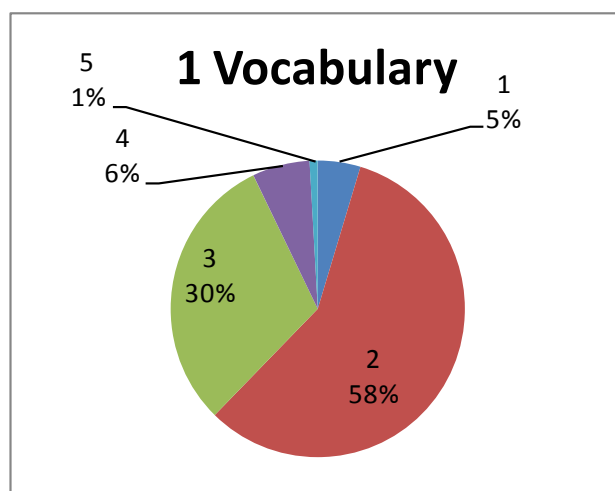


図 2

うということなのか。

毎回違った話題に関連する語句が2冊の教科書を合わせると20～30語ずつ出てくるが、全てが新しい単語というわけではない。基本的に個人の日常生活・ビジネス関連の社会生活に関するものが中心で、これまでに繰り返し出てきた単語も含まれている。単語学習の過程としては、

- ① 英単語・英熟語の発音と意味と綴りが分かる。(音と文字と意味の3つを一体化してインプットすることが重要である。)
- ② その単語を発音できる。
- ③ その単語を含む英文を音読でき、意味も分かる。
- ④ その単語が使われている英文を聴いて、あるいは読んで、そのおおまかな内容が理解できる。
- ⑤ その単語を書ける。^{注8)}
- ⑥ その単語使って自分の言いたいことを口頭や、文章で表現できる。

このように、一言で「語彙力」といっても、聞いたり・読んだりして意味が分かる受容言語(Passive Language)レベル(前述の①～④)から、それを使って話したり・書いたりできる活用言語(Active Language)(⑤～⑥)までのいくつかの段階がある。下位クラスの学生たちは単語の意味が分かったことで、少なくとも教科書に出てきた英語のおおまかな内容が理解できるようになったとすれば、「単語力がついた」と実感するであろう。しかし、英語の運用力までを含めたレベル(たとえば「英語を使えるようになりたい」)までを目指す学生たちにとっては、「まだまだだ」と評価している可能性がある。学生がどこに自分の目標を置くかによって自己評価の基準は違ってくる。その評価の基準は教師による成績評価ではないので、各学生が判断した評価でかまわない。重要なのは自分の目標に対する自己評価の後、次の目標をどこに置いてまた勉強を続けていくかということである。

4.2 聴解力は向上したのか？

聴解力が向上したと評価している学生たちが1 Very good-1%と2 Good-50%を合計すると52%いる。一方で、あまりあるいはほとんど向上しなかったと回答している学生は、3 Not so good-43%、4 - Not good 4%=48%であった。4つの目標の中では到達度評価が一番低い。語彙力がついたとしているのにそれが

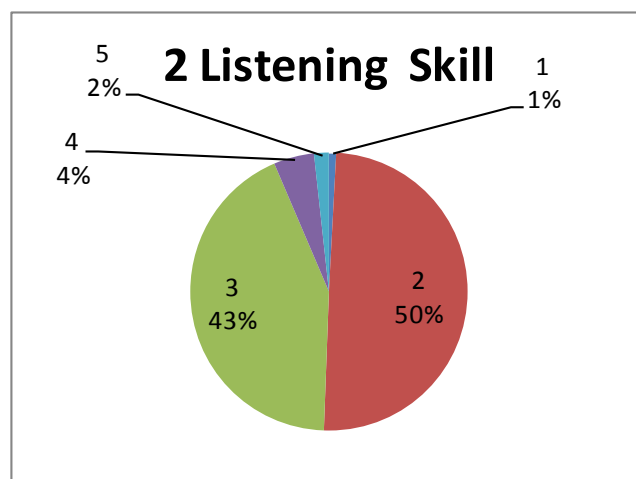


図 3

聴解力が向上したという評価と直結しないのは、英語特有の音声学上の変化についての知識がないためであると考えられる。一つの単語の発音は分かっているとしても、それが自然なスピードで話される時に起こるさまざまな変化には対応できない。たとえば、音の短縮 (contraction)・音の連結 (linking)・音の弱化 (reduction)・音の脱落 (elision)・音の同化 (assimilation) など。あるいは、強勢アクセント、語強勢 (word stress)・句強勢 (phrase stress)・文強勢 (sentence stress) などであるが、これらについて手短かにでも知識として教えておくことで、自分が速いスピードで音読した時に自然に生じているそのような音声変化を実感し、徐々にそのような音の変化にも慣れていくだろうと思われる。

様々な種類のリスニングを授業に盛り込む工夫も必要である。TOEIC Listening Test に即したリスニング練習を考えてみても、文のキーワードを聞きとる、Yes/No Question か、5W1H の一問一答、短い会話の内容についての質問、まとまった英文の概要や要点の聞き取りや、リスニングとライティングの組み合わせで空欄穴埋めやディクテーション、リスニングとスピーキングの組み合わせでペア学習など、教材や話題に応じて柔軟に組み立てる。聴解力に焦点を置いた練習であっても、最終的にはコミュニケーションを目指していくことを意識させることが重要だ。

5 分間の復習確認テストでは、単語を 5 つ、英文 5 つのディクテーションを続けたが、特にディクテーション・テストは総合的なリスニングテストとしてはかなり有効である。音声と綴りの正確さや基本文法の確認 (特に、弱勢で聞こえにくい箇所は文法的な知識が理解を助ける場合が多い) も可能であり、何より、音の短期記憶 (short-term memory) や作業記憶 (working memory) が鍛えられる (Buck⁽³⁾, 73-78)。最初 5 語くらいの文から練習を始めて、内容理解も伴ってだんだん長い文にも慣れてくると、最後は 10 語くらいまでは書き取れるようになる。これもまた「訓練」と「慣れ」であり、達成可能な目標値であることを学生に示すことで彼らの大部分は真剣に挑戦してくる。

4.3 読解力は向上したのか？

EE - 1 のクラスで 2 - Good 72.73%, EE - 2 のクラスで 1- Very Good 10% , 2 - Good 63.33% 合計 73.33% と回答しており、少なくとも教科書レベルの英語を読んでみて、「わかる！」と彼らが評価できるようになったことはとても喜ばしい。TB - 2 のクラスは 2 - 53.85% であり、経済学部 の 2 クラス, EE-1 の 72.7% や EE - 2 の 63.3% ほど高くはないが、これは学生たちの目標値が高いために「まだ

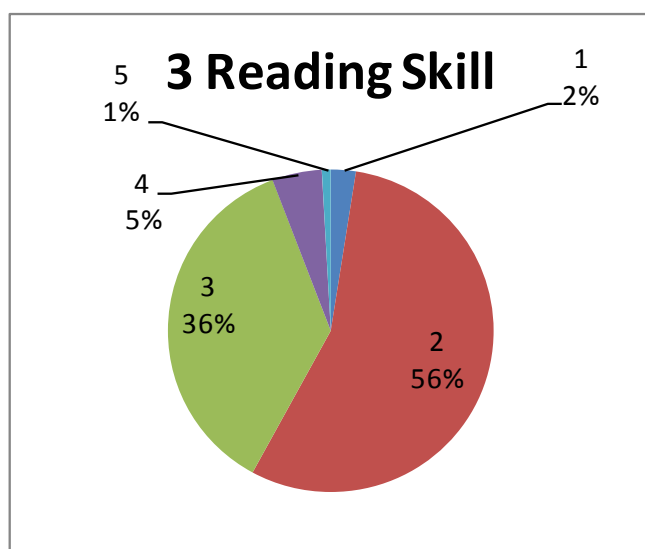


図 4

よく読めていない」と判断したためと思われる。このような学生に関しては、これからもっと長い英文を、もっと短い時間で、要点を把握しながら読むという方に段階を上げていく必要がある。一方、TB-1のクラスは、64.8%（3 – Not so good 60.71%, 4 – Not good 3.57）と回答しており苦手意識を克服できなかったようだ。

インターネットやメールの普及により、これまで以上に「読む」・「書く」機会が増えていくが、できるかぎりたくさん英語に触れるようにし、そのことで単語数もふやし、読み方のコツをどこかで発見していったほしい。基本的には、教科書の復習を継続しながら、基本の基本をさらに固めていくことが大切である。

4.4 「調べて、考えて、書く」レポートはできたのか？

「これは私が『教える』授業ではありません。皆さん自身が『学び取る』授業です。この映画から、みなさん一人ひとりが何をどのくらい学べるでしょうか。」

映画を鑑賞する前にその予備知識として学生に学ばせておきたいことをテーマとして与え、それについて各自がインターネットで検索し（資料の出典を明記）、読み、考察し、A4用紙

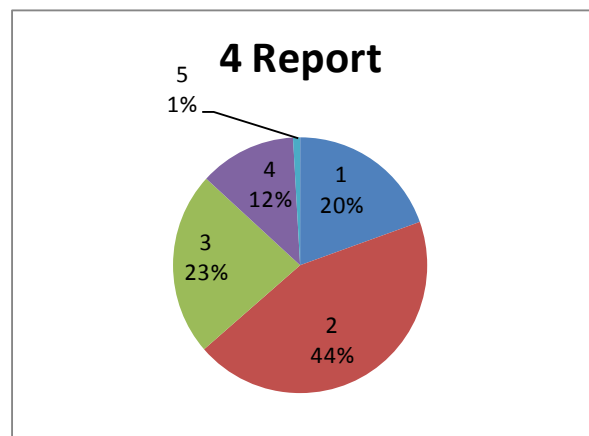


図 5

1枚の Word 原稿を作成するというレポート課題を出題した。基本的に映画鑑賞は教室を離れ

て図書館の大きなスクリーンで映像と音楽、そして英語を楽しみさせながら理解させるのが目的であるが、その映画をより深く理解させるにはやはり事前学習が必要である。前期は **Remember the Titans** (2000) 関連で、アメリカの公民権運動 (Civil Rights Movement) (日本語でも英語でも可)、後期は **Forrest Gump** (1994) 関連の時代背景となる 1950 年代から 1980 年代のアメリカ史のキーワードを 10 個テーマに選び、1つのテーマに 2・3人ずつ担当させ、1人が英語、あとの 1・2人が日本語のレポートを作成し、クラス人数分+2枚ずつ持参させる。(学内でのパソコン使用による印刷代は授業料の中に含まれているので、それを利用させる。) 教師が表紙と目次を作成し、学生が持ち寄ったレポートを目次順に並べさせ、ホッチキスで綴じさせて製本。(時間の都合上、学生が映画鑑賞中に私がホッチキスで綴じたクラスもある。)

この課題学習は教室で教師から教科書を「教わる」授業に比べると学生一人ひとりに「負荷」がかかる。それが彼らにとって「学び方を学ぶ」もう一つの機会となり、「とても勉強になった」と言う学生が多い。図書館利用の仕方や、図書館が作成した「レポート・卒業論文作成の仕方」

などを参考にさせたが、かなり中身のあるレポートも提出された。インターネットでの検索、引用、考察を書くということで大変だっただけに、やり終えたときの達成感も大きかったようだ。それが到達度評価が一番高かった理由だと思う。今後、このような学習活動時の図書館との連携やもう少し体系的な指導法や評価方法の検討が必要である。^{注 9)}

5 「学び方」を学んだのか？——“Being a Good Language Learner”

5.1 Do you think you are a good language learner?

この授業の最終目標であった「学び方」を学んだのかについて見ていきたい。英語を学んでいる自分自身をもう一つ上の次元から見つめさせるために、彼らに以下の2つの質問をした。

(付録 資料2 B. Answer to the following questions about “Being a Good Language Learner” を参照)

0.1 Q1: Do you think you are a good language learner?

Q2: Why do you think so?

「あなたは英語を上手に学んでいると思いますか？」という質問に対して106人中、無回答は2名だけで、99.8%の学生たちが「自分の学び方を評価した」ことが一番重要である。そのうちの41.3%の学生が「はい」、58.5%が「いいえ」と答えている。

クラス別で見ると、EE-1 59.09%, EE-2 53.33%, TB-2 38.46%, TB-1 14.29% であった。EE-1 と TB-1 のクラスは4倍もの差が出たことは驚きである。最初の「担当クラス」の表で示したとおり、EE-1 のクラスはレベルが「下」の中でも「最底辺」のクラス(入学時 Placement Test 平均18点)であり、次に低かったのが TB-1 のクラス(平均25.4点)であった。しかし、この2クラスでなぜ上下が逆転し、評価にこれほ

表 6

Do you think you are a good language learner?				
人数	クラス	Yes (%)	No (%)	無回答
22	EE-1	59.09	40.91	
30	EE-2	53.33	43.33	3.33
28	TB-1	14.29	78.57	3.57
26	TB-2	38.46	61.54	

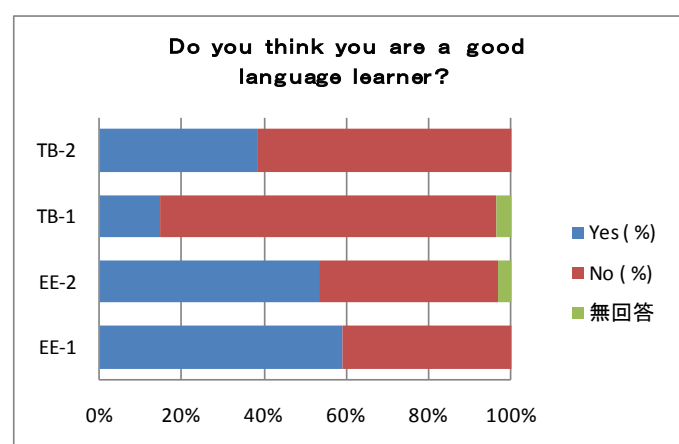


図 6

どの差が生じたのか？

この2クラスに限定して質問に Yes/No と答えたその理由をしてみる。

☆ **Yes (= I am a good language learner)** の理由

EE-1 基本的な英語が身についたと思います／書いて覚えるようになった／理解できているから／テストの点数が良くなった／とても面白かったです／その日やったことをちゃんと毎週復習でノートに書いたから／勉強の仕方が少しわかったから／なんとなく。

TB-1 基本的なことからやっていく／文法が少しだけ解かる様になった

☆ **No (= I'm not a good language learner)** の理由

EE-1 あんまり変わっていないから／いまいち英語が理解できなかったから／勉強になった／勉強する時間を上手にとれない、

TB-1 理解が不十分であるから／結果的に良くなかった／全然わからないから／よくわからない／うまくまとめられなかった／まちがったところを復習しないか／英語を愛していないから／なんかやっぱり英語がすきになれなかった／なかなか英語を覚えられない／まだ英語に対して苦手意識がある（2名）／単語や文章をたくさん書いてもっと覚えられるようにしたほうがいいから／授業の復習以外はあまり勉強できなかった／勉強の仕方がわからない（2名）

この2クラスは、英語が苦手な学生が多いということと遅刻と欠席が多い点では共通していたが、出席者に限定して言えばEE-1のクラスは一人ひとり真面目で真剣に授業に参加していたが、TB-1のクラスはボーっとしているか、(1時限の授業なのに)寝ているかあまり聞いていなかったり、一部の学生間で私語があった。ここに書かれた理由を見ても、EE-1はそれなりに努力をしたあとがうかがえ、手ごたえを感じているのに対し、TB-1のクラスは努力のあとがあまりうかがえず、好き嫌いで英語を語っている学生もいる。目標を達成しないまま学習を途中でやめてしまっている、「化石化」あるいは「後ずさり現象」(ロッド⁽⁶⁾, 72)という状態にあるのかもしれない。

短大独自の授業アンケートで先ず出てくるのは「授業があまりにも長過ぎる(5分前・10分前・15分前)に終わってもらいたい」(90分という大学の授業時間は長すぎるという声は、全然新しいものではないが、はっきりと「10分」・「15分」前に終わってもらいたいという声は今年初めて)であり、次に「あまりにも速すぎる／難しすぎる／内容が多すぎる」ということであった。レポートを出題した時、教室を出る際に「面倒くせー！」と言った学生もいる。学習する前から拒否・拒絶状態にある学生もいる。そうなる「直接的な指導は必ずしも言語の学習を成功に導く

わけでもなく、また必ずしもその効果を持続させるわけでもない」(ロッド⁽⁶⁾,157)

「「休止」を挟む講義時間の学習パターンの推測」(Hypothesised Pattern of Performance during a Lecture with a Break) というタイトルの興味深い資料(土持⁽¹⁶⁾, 82)がある。それは50分間の授業を想定したものであるが、授業時間が進行すると行動様式のレベルがどう変化するかを示している。それによると、「学生の集中力は最初の20分を過ぎると急激に低下する、しかし、5～10分間の授業「休止」を挟むことで再び集中力が高まり、学習が増加する」(土持⁽¹⁶⁾, 83)というものである。私の授業は前半「文法」35分、後半 TOEIC 35分(ぴったりというわけではない)であるので、連続ではそれほど長くはないと思っていたが、いわゆる「休止」はない。「20分」というところと「急激に」というところは記憶に留めておきたい。

5.2 General (全体的に)

年度当初、英語の勉強の仕方について助言するために配布したプリントに従って、その助言したことを学生たちが試みたかどうかを質問してみた。

(付録 資料2 後半 B. Answer to the following questions about “Being a Good Language Learner” 参照)

表 7

資料 4-1 2010年度城西大学 自己評価資料
Being a Good Language Learner

	EE-1	EE-2	TB-1	TB-2	平均
0.1	59.09	53.33	14.29	38.46	41.2925
G-1	81.82	50	71.43	69.23	68.12
2	72.73	53.33	42.86	65.38	58.575
3	54.55	46.67	21.43	50	43.1625
4	63.64	53.33	17.86	50	46.2075
C-1	54.55	40	25	53.85	43.35
2	63.64	66.67	67.86	53.85	63.005
3	72.73	70	53.57	34.62	57.73
4	63.64	56.67	28.57	57.69	51.6425
5	40.91	30	25	42.31	34.555
OC-1	68.18	56.67	28.57	46.15	49.8925
2	63.64	76.67	64.29	57.69	65.5725
3	81.82	73.33	75	76.92	76.7675
4	59.09	36.67	28.57	61.54	46.4675
5	40.91	43.33	14.29	46.15	36.17
平均	62.72933	53.778	38.57267	53.58933	52.16733

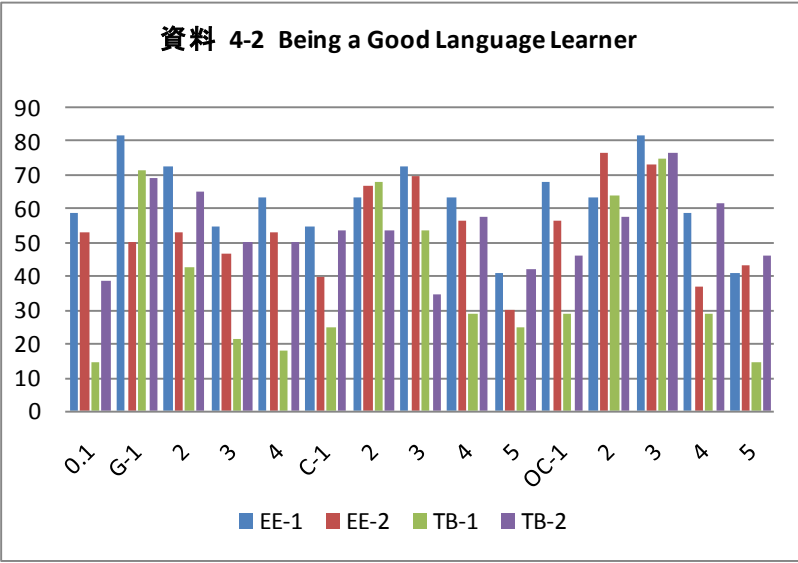


図 7

表 8

資料4-3 Being a Good Language Learner

	EE-1	TB-1	平均
0.1	59.09	14.29	36.69
G-1	81.82	71.43	76.625
2	72.73	42.86	57.795
3	54.55	21.43	37.99
4	63.64	17.86	40.75
C-1	54.55	25	39.775
2	63.64	67.86	65.75
3	72.73	53.57	63.15
4	63.64	28.57	46.105
5	40.91	25	32.955
OC-1	68.18	28.57	48.375
2	63.64	64.29	63.965
3	81.82	75	78.41
4	59.09	28.57	43.83
5	40.91	14.29	27.6
平均	62.72933	38.57267	50.651

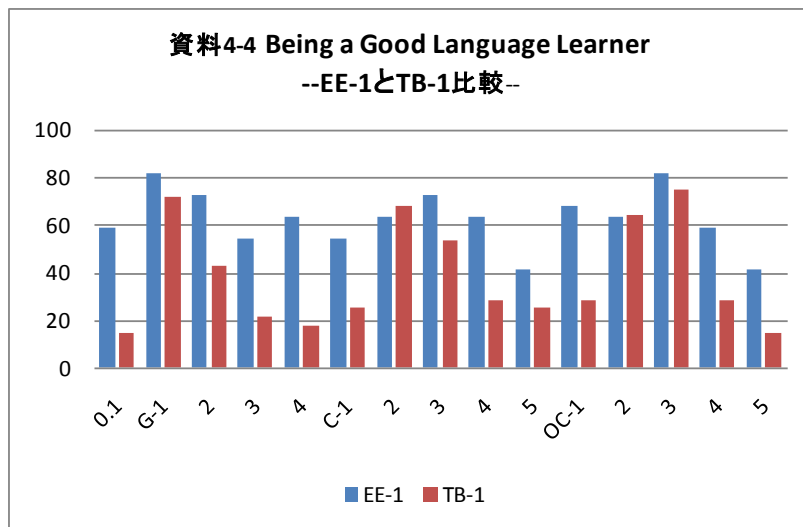


図 8

4つある「全体的な助言」の中で G-1 の質問「本当に英語を学びたい、あるいは英語を必要としているのか」と動機や意欲を自問自答してみたかどうか、これは一番重要な質問であった。4クラス平均 68.12%の学生が “Yes”と答えており、EE-1 のクラスでは 81.82%と 1 番高い。ここで自分の動機や意欲を確認できたとき学生は英語学習の「出発点」に立ったといえる。

G-2「たくさん英語を聞いたり・読んだりする」が 58.57%（EE-1 は 72.73%でこれもまた 4 クラスの中では一番高い）で、インプットの「量」が大切なので^{注 10)}これも評価できる。

G-3「時折文法の構造や用法を見してみる（復習する）」46.35%。TB-1 は 17.86%で TB-2 の 50%と比べるとかなり低い、その結果ともいえる復習テストの点数をみても、TB -1 は分布が平均 2～5 点と低く、Good（合格点）の 7 点以上が一人もない時もあり、1 週間経つと前回の学習内容をほとんど忘れ去っている学生も見られた。一方、TB -2 のクラスは点数 4～10 点、YK のクラスは 6～9 点で、ほとんどの学生は復習をしていると思われた。たとえ自宅でノートを活用した復習をしていなくとも、授業開始時、私が教室に入ってCDの準備やその日の学習内容を板書している時間に、あるいは、出席を取っている時間に前回学習したことを教科書を開いて復習している学生がかなりいた。そういった小さなことの積み重ねはかなり大きな差となって結果に現れる。

5.3 In Class（授業中）

C-2「間違えることを気にしない」63.01%は好ましい。言葉は何度もまちがいを重ねながら「習得」していくものだからである。「間違えるのは当然」、「教室でまちがっても恥ずかしくない」ということを最初に学生たちに言った。英語は受験科目で能力別クラス編成で勉強してきた可能性もあり、そのことで植え付けられた苦手意識や劣等感から逃れられない学生もいる。AO 入試導入

後は、実質無試験（前述したように「選抜機能を果たしえない状態」となり、英語さえも（高校2年時から）選択科目になっている高校もあることを知った（「中学はあまり行ってなかったし、高校では1年生で選択でやめてしまったので得意・不得意以前の場所にいると思っています」TB-1）。大学入学前にすでに2年間も英語から離れている学生もいることもふまえて、まずは萎縮しないようにして授業を受けさせたい。

次に高いのはC-3「リラックスして、肩の力を抜いて英語の授業を受ける」57.37%，特にこれまで英語に苦手意識を持つ学生が多かったEE-1のクラスにおいて72.73%というのは、新たな気持ちで大学の英語の授業に臨むうえでかなり大きなことだったと思う。「先生が楽しく話しているので楽しくやれそうな気がします」EE-1, 2010.4.12）。

C-4「英語を、その新しい世界と発見を楽しむ」51.64%，C-2「英語を使って実験してみる」（この設問は「解釈」が難しいが、各学生にゆだねることにして）34.56%。この質問はこれまで英語を「得意／不得意」，「役に立つ／立たない」レベルで捕えてきた学生たちにとってはかなり異質なものだと思ったと思う。一つの人生経験あるいは未知への挑戦，異文化体験として，外国語学習を捉えさせようというものである。英語あるいは外国語学習に対する多様な視点を提供するためにも，大学での授業開始前に学生に投げかける意味がある。

C-1「機会があればなるべく英語を話す」43.35%。年度当初自己紹介を書かせたとき，「英語で得意・好きなことは？」という質問に対して，薬学部の学生たちは「リスニング」（3），「簡単な質問に答える」，「読むこと」（3名），「英会話」（2名），「単語の暗記」（3名）と答えていて，かなり興味も意欲も見せていたことを考えると，授業中もっと機会を作って二人組やグループであるいは教師を相手に音読や会話させればよかった。そうすれば英語を「もっと好きに」あるいは「さらに自信を持てる」ようになっていたかもしれない。苦手なところを克服するだけではなく，得意なところを「さらに得意に」させる工夫も必要である。

5.4 Out of Class（授業外）

OC-3「英語の音楽を楽しむ」76.76%が一番高い。多くの学生は英語の音楽が好きである。授業前のウォーミング・アップに一曲聞かせて歌詞の穴埋め問題をやらせてみると学生たちは楽しんでいる様子だった。日常的に趣味で英語の音楽を楽しんでいる学生もいるので，好きな曲を聞いて，歌詞カードがあれば（もしなければインターネットで検索すれば出てくるので），歌詞を見ながら聞くのもいい，通学時の電車の中で聞くのもいいと助言する。

OC-2「英語の映画を楽しむ」65.57%が2番目に来た。前期の *Remember the Titans*，後期の *Forrest Gump* も真剣に鑑賞していたし，ほとんどの学生が英語のワークシートやレポートをきちんと書いて提出した。「面白いです」，「後半来週まで待ちきれないので，今日 “つたや”（DVD ショップ）でレンタルして帰ります」，「もっとじっくり見たいからDVDを借りよう」，「母も好

きだから、この映画もいっしょに見ます」と私のところに言いに来た学生たちもいた。

唯一、TB-1 のクラスの 2～3 人が、映画が始まっても私語を止めず、注意をしてもまた私語が始まる。寝る、飲み物を飲む、最後は携帯電話の操作を始めたが、これまでこのような学生はほとんどいなかった。彼女たちは映画に興味がないというよりは、学ぶこと、知ることそのものに興味がないようにも思えた。

しかし全体的には英語の音楽と映画を楽しむことに対する興味・関心が飛びぬけて高いので、ここが英語の世界へ導く一つの入り口になることは明らかである。「フォレスト・ガンプの考え方が普通と違って（いい意味で）妙に世界観に浸ってしまいました。・・・ここまで夢中になれたのはこれが本当に初めてのような気がします。先生には感謝しています」（YK）、「先生の話していた“英語が簡単で聞きとり易いこと”と“様々な音楽が聴けること”と“歴史的瞬間が見れること”に注目して『フォレスト・ガンプ』を見た。ガンプの独り語りのシーンは聞き取れる単語数や文章が多く、字幕に頼らず自分で内容を理解しようと努めたためとても頭を使った。だが、ネイティブの英語をゆっくりしっかりと聞くことができいいトレーニングになると思った」

（YK）のような感想をみると、卒業に必要な単位取得のための授業から開放されても、さらに大学卒業後も、英語の映画や音楽は彼らが長く楽しんでいける人生の趣味の一つになるかもしれないと思った。

OC-1「余暇に簡単な英語を読んでみる」49.89%と OC-4「英語で会話をしてみる」46.46%、いずれも約半数の学生たちがやってみたのは評価できる。一番低かったのは、OC-5「新出単語、新しい表現を復習し、それを続けていく」36.17%であった。一応復習はしたけれど、十分な量の復習ではなかったと判断したのか、あるいは全くやらなかったのか。復習をどのように各学生に習慣づけていくのか、検討が必要である。

5.5 学生の感想

（「目標到達度自己評価」用紙の下のすき間に書かせた。）

EE-1 楽しかった／映画が楽しかった。よい映画が見れてよかったです。／少しではあるが、英語力が身についたと思う／基礎的な英語が身についたと思います／勉強になった／来年英語はとらない考えですが、日常的な英会話を少し覚えようと考えています／とても面白かったです／映画を見るのは新しい学習方法でよかった／楽しかった。わからない部分もあった／少しでも英語が上達できたら良いと思います。来年度も英語の勉強をかかさず取り込んでいけたらなと思います／よく復習できて学べたし、テストでも結果は出せたと思います。けども、自分にとってはもう英語は学ばなくていいなと思いました。それは嫌いだからではなくて、これ以上難しいと英語ができなくなると思ったからです（注：この学生の後期末試験は 94 点であった。5 クラス 147 名中 90 点以上は 13 名、このクラスではこの 1 名）。

EE-2 1年を通してほとんど欠席せず、がんばれた／難しいところをもっと時間をかけてやって欲しかったです／私は英語を聞くのは好きなのですが、読むのはにがてです。先生の授業を受けて少しだけ読む力がつきました／授業は分かりやすく楽しかったです。洋楽をいっぱい聴くようになった／日常で使える英語が良かった／リスニングのテキストが役立った／ありがとうございました。これからも頑張ります／単位がぜひとも欲しいです／ビデオは面白かった／授業の進みが少しはやかった／1年間ありがとうございました。楽しくてよかったです。来年以降はもっと英語の音楽を取り上げてください。

TB-1 1年間ありがとうございました。少しは進歩できたようです／もっと授業を早く終わらせてほしかったです。10分前とか。1回の授業でやる量が多いと思います／よくわかんなかった／あまり内容を知ったり、文法を使うことができなかった／これからは英語は大切なので映画を見たり、音楽を聞いたり、日常でも英語とふれ合っていきたいと思います／やっていくうちにTOEICの勉強の仕方がわかり、リスニングがだいぶできるようになった／1年間学べてよかったです。こんどはしっかり身につけたいです／前より英語に取り組むようになりました／最初に比べたら少しは知識がついたのかな?と思います。ですがまだまだ苦手です／今後も英語を使っていきたいと思えました／英語はとても難しかった／今までよりは英語の知識をふやすことができた／英語自体は楽しいのですが、英語が苦手なのでムズかしいです……。これからは英語をもっとべんきょうします／これからは英語を勉強する／もっと勉強が必要だと感じました。でも授業で勉強ができてよかったです／前期の時とは違い、リラックスして英語の授業に取り組みました。単語もたくさんおぼえられた／先生の授業はたのしく英語を学べる／英語が学べてよかったです／楽しかった。

TB-2 基本的に英語は苦手なので大変でした。TOEICの本番の方のテストもがんばりたいです／気持ちよく授業できました／1年間いろいろな単語やリスニングなど分かることができた。まだまだ、リスニングは聞きとれないので慣れるようになりたいと思った／授業でごいが増えたと思います／難しい授業でついていくこともできなかったように思います／最初は高校時代と違うスピードについていけるか、不安でしたが徐々に慣れてくると何とかついていけるようになりました。TOEICを勉強していて1番困ったことは「単語力が乏しいこと」でした。これからは、英語のCDを聴いたり、文を読んだりして、身につけていきたいです。1年間ありがとうございました!!／とても楽しく授業が受けられました。でも内容はもっと発展したものがよかったです。

(注:最後の2名はそれぞれ後期末試験が94点と98点, TOEIC リスニング実力テストのところでも述べた11/15点と12/15点を取った学生たちで、最終評価は「S」—今年度私が担当した173名中2名—で学生にはAと通知

されるが、授業料免除奨学生の対象となる。)

全体的にリラックスしてのびのびと勉強し、「楽しかった」という感想が多いことはとても嬉しい。とりわけ EE-1 のクラスの学生は、それぞれに助言された「学び方」を実際にやってみて、「学び方がわかった」、「楽しかった」と書いている。その結果はこれまで見てきたように Placement Test の点数の前・後期差で見る伸び率は 5 クラス中 1 番の 12.58, 前期中間試験と後期末試験の点数増も 1 番で 17.8 点と大幅に上昇した。この結果が示していることは、いわゆる「低学力」と言われる学生たちは必ずしも「英語」がわからないわけではないということ、「英語の勉強の仕方」がわからないので結果として英語がわからず、点数が取れないので、自信を失うか興味や関心をもてなくなっているのかもしれないということである。彼らが自分なりの「学び方」を試みて、その結果が出ると、それが喜びや興味・関心となって新たな学習意欲へと発展するのではないだろうか。

しかしこれらの好ましい結果はようやく大学での「自立的な学びの出発点」に立てたということにすぎない。これから卒業までの間に、学生たちがそれぞれの夢や目標を達成するために英語も含めてどのくらい勉強が必要なのかを見定め、次年度初め、そのための新たな英語の（できれば短期一学期、中期一年間、長期一将来の）到達目標を設定してほしい。経営学部以外、必修科目としての英語は 1 年で終わることを考えると、各学生の意志で英語学習を継続していくにはまだあまりにも「道遠し」と言わざるを得ない。彼らがその後、どのような英語選択科目を履修したのか、あるいは必修科目修了とともに英語学習をやめてしまったのか、履歴書に書くことになるかもしれない TOEIC の点数はどう変化したのか、向上したのか、したとするとどのくらい向上したのか、伸び悩んだのか、諦めたのかなどさらなる追跡調査が必要である。

6 今後の課題

今年度やりかけたこと、やり残したことは山積している。

来年度も継続してやることとしては

- ① 年度初め、学生像をしっかり把握する。5~10 分程度自己紹介文を書かせ、大学入学の目的や動機、将来の目標、興味・関心、英語の得意・不得意などを自由に書かせて、特に「多様性」や「個性」の中身をより詳しく知る。慌しく多忙な時期、長時間は取れないので短時間での把握につとめる。
- ② その「多様性」を踏まえて教師が教えるべき「最大公約数」とは何か、そして何を「英語の基礎・基本」とするのかを見極め、それに沿った教科書を厳選する。まれに、指定教科書の中

に、文法用語も特殊、アプローチも特殊、練習問題の量と質の面からみても大学1年の「リメディアル教育」から始めなければならないクラスには不適切としか言いようのないものがある。指定教科書の選定は吟味した上で、あくまで「学生にとって」「基本を学びやすい教科書」を選ぶ。

- ③ 教師の英語観を語る。学生もまた担当教師や英語との関わりや勉強の仕方について興味を持つようだ。質問が出たら、丁寧に答える。
- ④ 授業の目的を明確に説明し、教師と学生が到達目標を共有する。その目標到達のため、授業内容・進め方・英語学習の仕方（予習・授業中・復習など）について助言をし、自分なりの「英語の学び方」を探らせる。
- ⑤ 毎回の復習（理解度・定着度確認）小テスト、中間・期末テストを実施し、そのつど目標到達度を確認させる。間違えたところは先ず授業中に復習させる。目標値 70%に達しない場合には、復習の強化や学習方法の見直しをさせる。
- ⑥ 教科書を離れての課題学習もやる。与えられたテーマに関してインターネットで検索し考察させるレポート作成学習に、その目的・評価方法も説明したうえで取り組ませる。
- ⑦ 最終的な目標到達度評価を学生自身にやらせる。教師の評価も教える。可能であれば、試験は最終日ではなく一週間前に実施し、最終日にテスト結果の説明・助言をし、今後の新しい学習の再出発ができるようにするのが望ましい。（これは日程上、無理だろうか。）

今後の課題として

- ① 改めて、大学が今どのような状況にあるのかを見極める。
 - ② 城西大学の学生たちは何を求めてここに入学したのか、それにわれわれはどう答えられるのか。特に、より高度なレベルの英語力を身につけたいと望んでいる学生に対する指導法の研究。同時に、英語に対する興味・関心がない、その必要性を感じない、それゆえ学習意欲がない学生に対する指導法の研究。
 - ③ 基礎・基本のリメディアル教育と（経営）学部のみニマムスタンダードとしての TOEIC 400 点を目指す学習を結ぶ教授法研究。
 - ④ 授業の目的・内容・教授法についての学生と教師双方による授業評価のあり方とより効果的な活用法の研究。
 - ⑤ 学生の学習時間と学習空間の拡大策としての図書館や情報科学教育センターとの協力の可能性を探る。
 - ⑥ 共通シラバス、共通教科書、共通クラスを担当する教師同士の情報交換や連携・研究報告の活用・FD（授業改善やその方法）のあり方を探る。
- などがあげられる。

7 結び——自立的学習の「出発点」に立つ

今回、2010 年度の成績評価を終えてその結果と学生アンケートから報告書を書いたが、結局、この作業は今自分が英語教師としていかにあるべきか、何を教えてきたのか、それを教える意味があったのか、それはわかりやすい授業だったのか、学生とコミュニケーションをとってきたのか、彼らはどう成長したのかなどさまざまに自己反省を迫られる作業でもあった。

学生たちがようやく「自立的に学ぶ出発点」に立ったように、今、私自身も原点に立ち返る。「学問とは何か」、「大学とは何か」、「外国語を学び・教えるということはどういうことなのか」を自分に問いかけながらまた新しい第一歩を踏み出したい。

謝辞

共有する英語教育問題について闊達な意見交換で問題の本質をより鮮明にしてくださった城西大学語学教育センターの藤田由季美先生、マークシート・リーダーの活用方法についてご協力を頂いた同語学教育センターの大橋稔先生、Excel のデータ処理に関してご協力を頂いた城西大学情報科学研究センターの石井宏様に、この場をお借りして心から感謝申し上げます。

参考文献

- (1)『朝日新聞』2009 年 8 月 1 日 朝刊「学校で「使える英語」なんて幻想だ——中学・高校で教えるべきは文法と訳読。明治以来、基本は同じ——東京大教授齊藤兆史さん」。
- (2)『朝日新聞』2011 年 2 月 10 日 朝刊 「国内行員も「TOEIC800 点」三井住友銀行の総合職—融資先の海外進出に対応」。
- (3)Buck, Gary. *Assessing Listening*. Cambridge Language Assessment Series, Cambridge University Press, Cambridge (2001) .
- (4)中央教育審議会：文部科学省「我が国の高等教育の将来像（中間報告）」平成 16 年 12 月 20 日
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/index.htm
- (5)Cleary, Chris. *Communication Spotlight: Speaking Strategies & Listening Skills* (High Beginner) , ABAX, Singapore, (2007) .
- (6)Ellis, Rod. *Second Language Acquisition*, Oxford University Press, Oxford, (1997) . エリス, ロッド, 牧野高吉 訳 『第 2 言語習得のメカニズム』ちくま学芸文庫, 東京, (2003)。
- (7)Hemmert, Amy, and O'Connel, Ged. *Communicating on Campus: Skills for Academic Speaking*, Alta Book Center Publishers, San Francisco, (1998) .
- (8)児玉善仁・別府昭郎・川島啓二 編 『大学の指導法——学生の自己発見のために *The University Teaching –For*

- the self-discovery of students*』東信堂，東京，（2004）。
- (9)Nation, I.S.P. and Newton, Jonathan. *Teaching ESL/EFL Listening and Speaking*, ESL & Applied Linguistics Professional Series, New York, （2009）.
- (10)大田あや 『東大合格生のノートはかならず美しい』文芸春秋，東京，（2008）。
- (11)『プレジデント Family 2010 年 11 月号』 わが子の成績が伸びるノート，伸びないノート』プレジデント社，東京。
- (12)清水 亮・橋本 勝・松本美奈 編著 『学生と変える大学教育 F Dを楽しむという発想 *What Is Faculty Development?*』ナカニシヤ出版，京都，（2009）。
- (13)Shoji, Nobuyuki. “TOEIC English and A Solution to The Difficulties for EFL Learners, explored in view of Authenticity & Cohesion of English”, 『城西大学語学教育センター研究年報 No.3』 1-61 （2009）.
- (14)寺島隆吉『英語教育が亡びるとき 「英語で授業」のイデオロギー』明石書店，東京，（2009）。
- (15)鳥飼玖美子『NHKテレビテキスト 歴史は眠らない 2011 年 2-3 月 英語・愛憎の二百年』NHK出版，東京。
- (16)土持ゲーリー法一 『ティーチング・ポートフォリオ 授業改善の秘訣 *The Teaching Portfolio: The Key to Success in Improvement of Teaching*』東信堂，東京，（2007）。
- (17)山田雄一朗・大津由紀雄・斎藤兆史『「英語が使える日本人」は育つのか？ 小学校英語から大学英語までを検証する』岩波ブックレット No. 748 岩波書店，東京，（2009）。

注

¹ 文部科学省 「我が国の高等教育の将来像（中間報告）」平成 16 年 12 月 20 日

HP http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/index.htm

当時の中央教育審議会の試算では、「2007 年春には現役志願者は 65 万人余りと 2004 年度比 5.6%減で，浪人も 3 分の 1 近くの 4 万 6 千人まで激減し，全志願者は 69 万 9 千人隣，合格者数と同じになる」というものだった。しかし実際には，2000 年頃からすでに入る大学・学部さえ選ばなければ，経済問題などを除く入学選抜のみの点では誰でも入学できる状況が始まり，2005 年度からはほぼ「全入時代」に突入したが，「2007 年度問題」（従前の試算「2009 年度」より 2 年前倒し）と呼ばれた 2007 年度入試では発生しなかった。全入問題とはあくまでも全大学の定員数を統計した上での問題であり，「誰もが志望する大学・学部に入れる，浪人生が存在しなくなるというわけでは決してない」。

² 同上，中央教育審議会「高等教育の将来像（中間報告）」第 2 章 新時代における高等教育の全体像より。

³ 先日 2011 年 2 月 10 日の朝日新聞朝刊に「国内行員も「TOEIC800 点」三井住友銀行の総合職—融資先の海外進出に対応」という記事が載った。世界 90 カ国で年間 500 万人が受け，日本では 2009 年度 168 万人が受験，990 点満天中，平均 500 点代後半という TOEIC（Test of English for International Communication）。昨年，楽天とユニクロが「社内の公用語を英語とする」と発表し話題になったことはまだ記憶に新しい。城西大学は経営学部が卒業時のミニマムスタンダード 400 点を「目指して」いる。

⁴ 『プレジデント Family 2010 年 11 月号』 わが子の成績が伸びるノート，伸びないノート』プレジデント社（20-69）でもまた，授業ノート術・テスト前ノート術，弱点ノート術，自己分析ノート術，教養ノート術などがやはり実物で示され，「徹底討論 30 時間」もまた面白く，ペンと紙に向かう情熱にそのすごさを再認識させられる。レポート作成用，あるいは，ノート代わりにパソコンを持ち歩いている学生もいるし，私が板書した連絡事

項を授業終了後消そうとしたら「先生、待つて待つて待つて」と前に出てきてあわてて携帯電話を出してカメラに撮った学生もあり、基本的な学習道具としての紙とペンというのも時代と共に一部変化が見られる。

⁵ **Communication Spotlight: Speaking Strategies & Listening Skills** (High Beginner) . ABAX, (2007) 付属の NOTEBOOK, p.40.

⁶ 後期試験には、教科書の既習 Lesson からそのままの英文 205 語（内容は、少年がショッピングセンターのアルバイトの面接を受ける会話と、その帰り道、友人と会って交わす会話）を 2 回聞かせ、以下の 5 つの質問に答える。Q1: How many hours a day does Satoshi have to work? (3hours) Q2: What days of the week can Satoshi work? (Monday, Wednesday and Friday) Q3: How much is the pay per hour? (¥800) Q4: When is the payday? (25th) Q5: How much does Satoshi have now? (¥7.000)

⁷ この TB-2 のクラスの後期末試験は 1 月 25 日（火） 2 時限目に実施したが、その前日、短期大学の副学長から電話があり、「明日のお昼に韓国からの修学旅行生との交流会があるので、12 時で（つまり 40 分短縮して）授業をやめて、学生を教室で待機させてください」とのこと。試験問題は 5 クラス共通で、50 分問題である。出欠をとり、試験問題を配布・説明するのに 15 分、すぐに開始しても 35 分しか試験時間が取れなかった。最初にそれを学生に説明したが、それでも 12 時に「試験時間終了です」と言う、学生たちから「せんせーい、時間が短いです！」と不満げに言われたが、それは当然である。彼らは実力を発揮する最後の機会であった期末試験の残り 15 分を奪われてしまったのである。正当に 50 分間受験できていたら、平均 73.1 点に何点くらい加算されていたのか、薬学部 YK クラスの平均 78.8 点を超えたのかどうか、見極められなかったのが残念である。

⁸ 寺島隆吉が「高校の現状」について『英語教育』2009 年 5 月号の巻頭特集記事から次の箇所を引用している。「今、高校に入ってくる子を見てみると、習ったはずのことが使えない。文法項目として習っていても、実際に文の中に出てきたときにそれが認識できないとか、読めない、書けない。特に書く力がここ数年あやふやになってきて、曜日を小文字で始める子や文を大文字で書き始めない子など、文の規則的な部分から指導しないといけない生徒の数が増えています。中学校の授業数が少なくなって、書いた文を先生に見てもらう機会が少なくなったのだろうかと、気になりますね」（寺島、191）。（下線は著者による）

EE-1, TB-1 のクラスについては、下線部の「高校」を「大学」に、「中学校」を「高校」に置き換えてもそのまま当てはまる。前期中間試験の返却時、私は赤ペンで「文頭は大文字で！」と十数名の解答用紙に書いた。後期末試験でも、英語を聞いて書く Questions & Answers の問題（注 6 の Q2 を参照）の解答に monday, wednesday and friday と書いた学生が数名いた。意味が分かる基本中の基本語でさえ、それが正しく書けるわけではない。受容言語から活用言語まで転化させるには、復習と定着確認の筆記試験が必要だ。

⁹ TOEIC English IIA/IIB のクラスでは前期は **Stand By Me** (1986)、後期はジョン・レノンのインタビューを集めたドキュメンタリー **Imagine** (1988) を鑑賞させ（事前にレポート課題）、4~5 人グループで（司会者 leader と書記 secretary を決め）発表と討論をさせた。討論の進め方については基本的な説明（Hemmert, 97-129）だけに留め、学生に「その学習形態を体験させる」ことに重点を置いた。映画は課題学習のみならず、双方向型学習という視点からも今後さらに検討していきたい。

¹⁰ 「インプットは不可欠な環境要因であると言える。言語習得者は自分が耳にした言語をそのまま習得するわけではない。なぜならば、言語習得は、内的言語処理（チョムスキー）の用語では「言語獲得装置」が重要な役割を果たすと考えられているからである。学習者は接触するインプットをすべて習得するわけではない。・・・クラシェンは、・・・実際、学習者がインプットを理解できなくとも、習得に重要なのはインプットそのものであると指摘しています」（ロッド、182-183）（下線は著者による）。そのため授業中も可能なかぎり、英語で授業を進める。2010 年度使用の教科書についていえば、文法の説明と TOEIC 練習問題の解答と解説は日本語ですが、他は一語一句和訳しなくとも、教師が英語で質問し学生には「英語を読ませ・話させ・黒板に書かせる」（＝英語でアウトプットさせる）ことで理解度の確認は十分に可能であった。

Being a Good Language Learner

Many people ask me about language learning. They ask me questions like, How can I learn a foreign language? or What's the best way to learn English? And so on.

There are many answers. However if you follow the advice below, maybe you can be a good language learner.

Everybody can learn to speak a foreign language if they really want to!

General

Learning a foreign language is not difficult BUT it takes time. To learn a foreign language you need to have:

- **Motivation:** If you really want or really need to learn, you will.
- **Language input:** You need to learn to and read lots of English that you can understand.
- **A Chance to practice:** Using language helps you learn language.
- **Timely correction:** An occasional look at the language structure and usage helps.

Don't work too hard. Learning a second language is something you do all your life. Don't try to learn everything in a day. It doesn't work.

In Class

- Try to speak English when you have the chance.
- Don't worry about making mistakes. Even very good second language speakers make mistakes. This is natural. Good second language speakers are used to making mistakes. (First language speakers do too! Don't you?)
- Relax. Keep your shoulders down. We learn better when we're relaxed. It's difficult to learn when we're nervous.
- Enjoy the language. Learning a language is like learning a new world. Enjoy the discovery.
- Experiment with new language.

Out of Class

- Try to read in your spare time. Read easy English. Read English that you can understand. Many teachers recommend reading books where you understand 95% to 98% of all the words.
- Try to enjoy English by watching movies.
- Try to enjoy English by listening to music.
- Have conversations in English.
- Review new words and new expressions. And keep reviewing them.

2010 TOEIC English I--目標到達度評価

Date _____ Class _____ No. _____ Name _____

A. 到達目標:

- 1 様々な話題に関する語彙をふやす。
1 Very good 2 Good 3 Not so good 4 Not good
- 2 英語のCDを聞いておおまかな内容を理解することができる。
1 Very good 2 Good 3 Not so good 4 Not good
- 3 英語の基本文法を理解し、英文を読んでその内容を理解することができる。
1 Very good 2 Good 3 Not so good 4 Not good
- 4 与えられたテーマについて、インターネットで調べ、考察しA4用紙1枚のレポートにまとめることができる。
1 Very good 2 Good 3 Not so good 4 Not good

(1→4, 2→3, 3→2, 4→1 = /16)

B. Answer to the following questions about “Being a Good Language Learner”

0- “Being a good language learner”

- 1 Do you think you are a good language learner? Yes / No
- 2 Why do you think so?

1--General

- 1 Do you really want or really need to learn English? Yes / No
- 2 Do you listen to and read lots of English that you can understand? Yes / No
- 3 Do you try to use English? Yes / No
- 4 Do you look at the English structure and usage occasionally? Yes / No

2--In Class

- 1 Do you try to speak English when you have the chance? Yes / No
- 2 Do you try not to worry about making mistakes? Yes / No
- 3 Do you relax and keep your shoulders down when you study English? Yes / No
- 4 Do you enjoy English, a new world and discovery? Yes / No
- 5 Do you experiment with English? Yes / No

3--Out of Class

- 1 Do you try to read easy English in your spare time? Yes / No
- 2 Do you try to enjoy English by watching movies? Yes / No
- 3 Do you try to enjoy English by listening to music? Yes / No
- 4 Do you try to have conversations in English? Yes / No
- 5 Do you review new words and new expressions, and keep reviewing them? Yes / No

How many “Yes”? _____ (/15)
How many “No”? _____

(Received Mar. 1, 2011)